

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	女性の再チャレンジ支援プログラム		
事業名	ITスキルとITパスポート資格講座		
法人名	学校法人三橋学園		
学校名	船橋情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 鳥居 勝一	担当者 連絡先	長堀 由美 047-421-0021
<p>1. 事業の概要</p> <p>【事業の主題】 ITスキルとITパスポート資格講座</p> <p>【ねらい・実施内容】 平成19年度に実施した同事業で養ったノウハウを活用し、結婚や子育て等により離職して再就職を希望する女性に対し、短期間で効率的にITに関するスキルと知識の両面を獲得でき、IT人材を求める企業へ再就職を実現する再チャレンジプログラムを実施した。具体的には、ITスキルを習得するためにパソコン操作実習と資格取得のためのカリキュラムを同時に展開した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>出席率は、ほぼ90%以上であり、22名のうち21名が修了式を迎えることができた。MCAS Word2007受験者4名全員合格、Excel2007受験者3名全員合格。2009年4月に行われるITパスポート試験は11名の受験申込みがあった。修了後1カ月以内で再就職の実現に至ったのは3名である。ITに関するスキルと知識を証明する資格の取得、再就職に至っていない受講生も活動中と意欲的になったことから、再就職への第一歩として成果があらわれている。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>情報処理技術者試験の新制度に対応すべくカリキュラムが得られた。主にITパスポート試験を意識した補足教材および情報処理技術者試験の過去問題集など作成があげられる。教室内レイアウトを工夫することで、受講生同士で学習する態勢が整い、昨年度より更に幅広いレベルに応じた教育内容の展開が可能となった。</p> <p>③今後の活用</p> <p>受講者の満足度も高いことから、昨年度からのカリキュラムが概ね適正であることが実証された。この教育ノウハウを今後、公開講座として提供し、千葉県のIT発展に努めるなどを目的として活用したい。具体的には、社団法人千葉県情報サービス産業協会の会員向け講座として、パート・アルバイト・派遣雇用者対象のスキルアップや厚労省による委託訓練の一部とするなど活用できる。</p>			

④次年度以降における課題・展開

情報処理技術者試験制度が新制度になり、ITストラテジ系・ITマネジメント系と多岐にわたる範囲となったため、内容における満足度は高かったが終了しなかった。そのため特別講座として、本事業対象内で3日間実施し、IT資格を18時間追加した。次年度以降のカリキュラムにて検討が必要と思われる。知識が問われる国家資格と実技が問われる民間資格の講座を分割することも検討したい。その結果、時間に制限のある方やどちらかを挑戦したいという受講生のニーズに応え、より貢献できると思われる。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

講座総時間数180時間(特別講座18時間は含めない)。講座独自の履修証明のみ21名発行

②カリキュラムの内容

【開発経緯】

平成19年度に実施した同事業でカリキュラムの基盤ができつつあった。昨年度開発したノウハウをより精度の高いものとすべく、本年度は実証段階にさしかかった。しかしながら、情報処理技術者試験新制度となり、教材など大幅な改訂をせざるを得ない状況となった。そこで実証及び新制度に対するノウハウを培うこととなり、実施に至った。

【対象】

結婚や子育て等で離職し、再就職を希望する25歳～49歳までの女性約20名。参加条件を、以下4つ設けることにより本事業の目的である再就職する意欲が高い受講生を募集した。

- ①全日程80%以上の出席が見込める方
- ②講座期間中および終了後に行うアンケートに協力可能な方
- ③パソコン系の資格取得にチャレンジする意欲のある方
- ④講座終了後、再就職する意思のある方

【開発内容】

■ITスキル

アプリケーションソフトの基本操作の記載された教材に平成19年度の反省よりMCAS受験者が多数いると予想できたことから演習問題教材ではなく、受験対策用教材を適用した。その結果、レベルに対応した授業が可能となり、カリキュラム完成度がより一層向上した。

■IT資格

情報処理技術者試験新制度であったため、市販教材が数少ない上、初めてIT知識を学ぶ受講生には説明が足りない箇所も多く見受けられた。よって補足教材の作成に加え、出題される可能性の高いであろう情報処理技術者試験の過去問題をITパスポート試験の範囲と適合させ抽出し、過去問題集を作成した。

範囲が多岐になったため、当初の計画であった授業数では終了しなかった。受講生からの強い要望により、2月21、28日、3月7日の計3日間(18時間)特別講座として項目予算内で修正し、実施した。

【再就職への有利点】

国家資格である情報処理技術者試験で知識レベルを証明できるだけでなく、MCASでアプリケーションソフトの実技レベルが証明されるため、知識や実技の一方に偏らない体系化された知識とスキルが習得できることは、再就職において企業から高く評価され有利点といえる。また、再就職講座と称してジョブカードの活用法や求人票の見方など実施した点も有利点といえる。

③講座の実施

■期間

原則として月・火・木・金曜の午前10時から午後5時。

これは土・日を除いた週1日は復習日が必要であることに加え、毎週水曜は近隣の幼稚園が早帰りしていることによる。平成19年度の反省より12月の最終日と1月の開始日を両日ともに小学校給食時期を考慮した上で決定した。

■ITスキル

パソコンのアプリケーションであるワープロソフトを活用した案内文やビジネス文書の作成、表計算ソフトを活用した表計算とデータベース操作の習得をテーマとした。

授業回数32、時間数80時間(別途、受験対策として31回、32.5時間)。

受講者数21名。年代別内訳として、30代6名、40代14名、50代1名(平成21年2月末現在)である。

アンケートは、レベル・スピード・教材・冊数・配布プリントの観点で行った。実習であるため受講前とのイメージにギャップが少なく年代を問わず、満足度がいずれも高かった。想定したレベル差はなかったとはいえ、多少はあるため、授業内で難易度の高い実践問題を行うなどして対処したのが良かったと言える。

■IT資格

国家試験の入門レベルである初級システムアドミニストラータ試験(平成21年度春期終了)、及び平成21年度春期より実施されるITパスポート試験を意識し、ITスキルと連動させながら、ITスキルで習得した基本的知識を体系化した知識を整理することをテーマとした。

授業回数26、時間65時間(特別講座含めず)。受講者数20名。年代別内訳として、30代6名、40代13名、50代1名(平成21年2月末)である。

アンケートは、レベル・スピード・教材・配布プリントの観点で行った。全員がコンピュータ知識はゼロであったため、85.7%が難しかったとの事だった。用語の暗記や計算に苦難を訴える受講生が多かったが、レイアウトの工夫と雰囲気作りが功を奏した。

情報処理技術者試験新制度により範囲が多岐になったため、当初の計画であった授業数では終了しなかった。受講生からの強い要望により、2月21、28日、3月7日の計3日間(18時間)特別講座として項目予算内で修正し、実施をした。

平成19年度と同様、前述通りIT知識はゼロに等しかった。しかしながら、懸命に理解をしようとする様子が見受けられた。出席率は、原則午前中実施していたこともあり、小学校行事と重なった3日間は約80%となったが、それ以外は90%以上だった。

■再就職講座

再就職をするにあたっての心構えをテーマとし、ジョブカード制度の紹介やハローワーク・仕事ネットの活用を雇用・能力開発機構千葉センターに依頼し、再就職講座と称して講演を行った。授業回数1、時間2.5時間。当初5時間を予定していたが、2.5時間となった。受講者数21名。年代別内訳として、30代6名、40代14名、50代1名(平成21年2月末)である。

④支援対象者(受講者)の状況

情報処理技術者試験新制度となり、範囲が多岐になったため特別講座として2月21、28日、3月7日の計3日間(18時間)特別講座として項目予算内で修正し、実施した。再就職活動に向けて、ジョブカードを作成しに職業安定所に向く受講生や実際に面接を受けてPC操作が認められ、再就職が決定した受講生が3名いた。講座終了から3カ月後に実施される情報処理技術者試験まで、特別講座以外にも可能なかぎり施設を提供し、モチベーションを保つフォローをしている。PC貸出も3月末まで延長し、MCAS受験者をバックアップしている。